

[5] 都城地区小体連（学校数43校 児童数 9,320 人）

I 年間事業

月 日	曜	時間	会場	会の名称	主 な 内 容	
					研究部	事業部
5月9日	木	15:15 16:25	早水公園体育 文化センター	教科主任会	○役員選出 ○研究の方向性	○取組内容確認 ○昨年度の反省確認
5月28日	火	14:00 16:25	早水公園体育 文化センター	第1回 常任理事会	○計画・組織 ○研究の方向性	○水泳記録の提案 ○陸上教室の提案
6月25日	火	14:00 16:25	早水公園体育 文化センター	第1回 理事会	○計画・組織 ○研究の方向性	○水泳記録の提案 ○陸上教室の提案
6～9月中			各学校	各学校における水泳記録会		
7月23日	火	14:00 16:25	早水公園体育 文化センター	第2回 常任理事会	○授業実践について ○理事会の作業確認	○陸上教室の役員編成及 び選手名簿作成の仕方
7月30日	火	14:00 16:25	沖水小学校	第2回 理事会	○授業実践について ○仮説の説明	○陸上教室実施要項修正 ○選手名簿の作成の仕方
9月3日	火	14:00 16:25	早水公園体育 文化センター	第3回 理事会	○参観視点確認 ○指導案検討	○実施要項最終確認 ○選手名簿作成の仕方
9月10日	火	14:00 16:25	早水公園体育 文化センター	第3回 常任理事会	○事後研内容確認 ○指導案検討	○実施要項最終確認 ○選手目簿作成の仕方
10月1日	火	14:00 16:25	早水公園体育 文化センター	第4回 理事会	○事後研の流れ ○指導案検討	○選手名簿確認
10月21日	月	14:00 16:25	都城運動公園 陸上競技場	陸上運動教室前日準備		
10月22日	火	8:00 15:30	都城運動公園 陸上競技場	第74回都城市陸上運動教室（当日、雨天中止を決定）		
9～11月中			各学校	三股町陸上記録会 各学校における記録測定		
11月11日	月	13:00 16:00	川東小学校	都城市・三股町合同教育研究会 小学校部会体育部会 領域:ボール運動 授業者:松山 拓磨		
2月4日	火	14:00 16:25	早水公園体育 文化センター	第4回 常任理事会	○本年度反省 ○次年度方向性検討	○事業報告決算報告準備 ○次年度事業計画検討 ○次年度組織編成
2月25日	火	14:00 16:25	早水公園体育 文化センター	第3回 理事会	○本年度反省 ○次年度方向性検討	○事業経過報告決算報告 ○本年度反省 ○次年度事業計画

II 事業部のあゆみ

I 各学校による水泳記録会（6～9月中）

（I）対象 小学5・6年生

(2) 実施種目 25m(自由形・平泳ぎ)、50m(自由形・平泳ぎ)

※ 実施可能な学校のみ、記録会を行った。

※ 5年生は、50mの種目は行わなくてもよいこととした。

2 第74回都城市陸上運動教室(本年度は、当日雨天中止を決定した)

(1) 対象 都城市内小学6年生全児童

(2) 実施種目 ① 選抜種目 100m走、50mハードル、長距離走(男子1000m、女子800m)、
ソフトボール投げ、走り高跳び、走り幅跳び
② 一般種目 80m走

3 三股町小学校陸上記録会 各学校における記録測定

(1) 対象 三股町市内小学6年生全児童

(2) 実施種目 50mハードル、長距離走(男子1000m、女子800m)、ソフトボール投げ、
走り高跳び、走り幅跳び

Ⅲ 研究部のあゆみ

Ⅰ 研究主題・副題

主体的・対話的で深い学びを実現する体育科学習の在り方
～ボール運動における指導の工夫を通して～
(3ヵ年計画3年目)

2 主題設定の理由

タグラグビー・フラッグフットボールが半必修化となり、今年度で5年目となる。都城地区小体連では、タグラグビー・フラッグフットボールの指導の充実に向けて、研修を行ったり、研究を重ねたりしてきた。しかし、未だ学校や学年・学級によっては、ルールの複雑さから指導に抵抗がある教師も少なからずおり、指導の実態については差がある。

本研究は、3ヵ年計画の3年目である。令和3年度は、中学年の「児童の姿に対する手立ての一体化表」を作成するとともに、第4学年「タグラグビー」で研究授業を行った。また、令和4年度は高学年の「評価規準表」を作成、昨年度は、低学年の「評価規準表」を作成するとともに、2年間に渡って第6学年「フラッグフットボール」で研究授業を行った。

令和3年度から令和4年度の成果や課題を踏まえ、昨年度から「ゴール型」の研究に取り組んだが、次のような課題が残った。

- ICT 機器は活動に合わせて、どのアプリを使うことが効果的・効率的なのか考えて活用する必要がある。
- 作戦を練る場面を設定する必要がある。

そこで、今年度は、これまでの児童が主体的に活動できる指導と評価の計画(低・中・高)の作成したものを実践するとともに、「ゴール型」における ICT の効果的な活用に焦点を置き、次のように研究を進めた。

3 研究仮説

ゲーム・ボール運動において、評価規準に即した学習活動を取り入れ実践・評価をすることで、主体的・対話的で深い学びで実現するであろう。

4 研究の内容

(1) 発達に応じた評価規準の作成(作成に応じた評価規準をもに授業実践)

学年	低学年	中学年	高学年
評価規準	<p>「十分に満足できる」状況 (A)</p> <p>「おおむね満足できる」状況 (B)</p> <p>「努力を要する」状況 (C)</p>	<p>「十分に満足できる」状況 (A)</p> <p>「おおむね満足できる」状況 (B)</p> <p>「努力を要する」状況 (C)</p>	<p>「十分に満足できる」状況 (A)</p> <p>「おおむね満足できる」状況 (B)</p> <p>「努力を要する」状況 (C)</p>
学習活動	<p>ゲーム・ボール運動のルールを学び、実際にプレイする。</p> <p>ゲーム・ボール運動のルールを学び、実際にプレイする。</p> <p>ゲーム・ボール運動のルールを学び、実際にプレイする。</p>	<p>ゲーム・ボール運動のルールを学び、実際にプレイする。</p> <p>ゲーム・ボール運動のルールを学び、実際にプレイする。</p> <p>ゲーム・ボール運動のルールを学び、実際にプレイする。</p>	<p>ゲーム・ボール運動のルールを学び、実際にプレイする。</p> <p>ゲーム・ボール運動のルールを学び、実際にプレイする。</p> <p>ゲーム・ボール運動のルールを学び、実際にプレイする。</p>
評価方法	<p>教師による観察・評価</p> <p>児童による自己評価・相互評価</p> <p>児童による自己評価・相互評価</p>	<p>教師による観察・評価</p> <p>児童による自己評価・相互評価</p> <p>児童による自己評価・相互評価</p>	<p>教師による観察・評価</p> <p>児童による自己評価・相互評価</p> <p>児童による自己評価・相互評価</p>

令和3年度から令和5年度までに低・中・高学年の「ゲーム・ボール運動」につながる評価規準表を作成した。各項目について、「十分に満足できる」(A)、「おおむね満足できる」状況(B)、「努力を要する」状況(C)、それぞれにおける児童の具体的な姿と、C 評価の児童に対する手立てを表に示し、教師が指導・評価しやすいように示し、各学校で実践を行った。

(2) ICT 機器を効果的に活用した「ボール運動」の指導方法の工夫

昨年度の「作戦をタブレット上で確認するだけでなく、実際に作戦の動きをしながら話し合った方が、よりイメージしやすく、運動量の確保にも繋がったかもしれない。」という課題を踏まえ、令和6年11月11日(月)に「都城市・三股町合同教育研究会」において、研究授業を行った。

領域	単元名	学年	授業者
ゲーム	ボール運動「タグラグビー」	第5学年	都城市立川東小学校:松山 拓磨教諭

今年度は、「タグラグビー」を行い、単元前半に知識・技能、後半に思考力・判断力・表現力等に重点を置いた単元計画を立てることで、児童が主体的に活動できるようにした。単元前半では、大まかに「ゲームに繋がる運動→ゲーム→練習→ゲーム」という流れをとることで、パスを投げたり、捕ったりする「ボールを持っている時の動き」や、ボールを持っている人を守ったり、ボールをもらうためにスペースに入ったりする「ボールを持たない時の動き」を身に付けさせるようにした。また、単元後半では、「作戦・練習→ゲーム→作戦・練習→ゲーム」という流れをとることで、チーム毎に作戦を話し合いながら、今まで撮ってきた動画を見たり作戦リストを見たりしてチーム内で動きながら練習するようにした。研究授業の際には、次のような視点を設定した。

- ① ICT や作戦ボードなどは、チームの特徴に応じた作戦を立てたり、選んだりするのに効果的であったか。
- ② 振り返りシートは、児童が自身の学びを振り返ったり、教師が個々の実態を把握したりするのに効果的であったか。

単元全体を通して、チームで作戦を“立てる”際には、ホワイトボードや動画、作戦リストの中から児童が自分達で話し合う手段を選択できるようにした。また、チームで作戦を“選ぶ”際に、作戦リストを中心に話し合わせることで、自分のチームの作戦や課題を見返したりすることができるようにした。さらに、本時の学習を振り返る活動において、Google サイトを用いて、その中に Google フォームで振り返りを書き込ませることで、教師が個々の学びを把握することができるようにした。



授業で使用した Google サイトと動画



作戦リストを使って作戦を選ぶ様子



5 研究の成果と課題

(1) 成果

- 「ゲーム・ボール運動」の評価規準では、作成することで評価しやすく、A・B の評価や C に対する手立てなど細かく記載しており、評価しやすかった。
- Google サイトは、これまでの作戦の動画を蓄積することで児童にとって作戦を選ぶことができ、効果的であった。また、Google サイトに、振り返りシート (Google フォーム) も入れることができ、一度に見ることができた。
- 振り返りシート (Google フォーム) は、教師が個々の振り返りを把握することができるため、効果的だった。

(2) 課題

- 宮崎県全体の体力テストが年々と落ちているため、それに沿った体力向上の必要性がある。
- 運動量の確保するためにも、作戦を考える時間を考慮し、タブレットの中の動画や作戦リストなどを見て、動きながら作戦を練ることも必要だったかもしれない。

IV まとめ

事業部では、市内6年生全児童を集めて、陸上運動教室を実施する予定で準備を進めてきたが、当日の雨天により、中止を決定した。昨年度、4年ぶりに実施した反省をもとに、さらに充実した大会を目指して準備を行ってきた。次年度は、会場の変更が予定されており、これまでの反省を生かしながら、さらに有意義な大会となるようにしたい。

研究部では、令和3年度から令和5年度まで、低・中・高の「ゲーム・ボール運動」に繋がる評価規準を作成し、各学校で実践してきた。実践を積み重ねながら、修正や改善を行い、児童主体の評価規準を作成することができた。研究授業では、作戦を考えるツールとして、作戦リスト・動画・作戦カードなどの選択肢を与え、児童が自分達で選ぶという、効果的な方法を実践し、各学校での体育授業における効果的な活用を図ることができた。また、宮崎県では、多数の学校で体力テストの結果が低下傾向である。そこで、来年度はこの問題に対しての研究が必要である。